
[成果情報名] 大輪で絞り咲きの香りツバキ「^{みのう}耳納^{かおり}の香」

[要約] 「耳納の香」は大輪の八重蓮華咲きで、紫ピンクの地色に鮮紫ピンクの縦紋が入り、生育が旺盛な香りツバキである。香気成分のひとつであるベンズアルデヒドを多く含む。

[キーワード] ツバキ、香り、大輪、絞り

[担当部署] 果樹苗木分場・苗木・花木チーム

[連絡先] 0943-72-2243

[対象作物] 花き・花木

[専門項目] 育種

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

本県の主要花木であるツバキの生産振興を図るためには、新規性の高い品種を育成する必要がある。近年、愛好家の間では香りツバキが注目されているが、既存の香りツバキは花径が小さく、花形、花色の変異が少ない。そこで、大輪で新しい色の新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「耳納の香」は、ヤブツバキ「春の台」と四倍体香りツバキ「ちくし曙」の交雑実生の中から選抜した大輪で絞り咲きの香りツバキである（図1）。
2. 「耳納の香」は花径が約10cm、花弁数が11枚あり、香りツバキでは初めての^{大輪}・八重蓮華咲きで、紫ピンクの地色に鮮紫ピンクの縦紋が入る。生育は旺盛で生産性に優れ、無加温ハウスでの開花期は2月下旬である（図1、図2、表1）。
3. 「耳納の香」は香気成分のひとつであるベンズアルデヒドを、「ちくし曙」や代表的な香りツバキである「港の曙」より2～3倍多く含む（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「耳納の香」は平成25年3月25日に品種登録出願公表。
2. 当面は、生産期間の短い接ぎ木苗を主体に生産し、認知度向上を図る。以後、大量生産が可能な挿し木苗を主体に生産し、需要拡大を図ることで、ツバキ生産農家の経営安定に資する。

[具体的データ]



図1 「耳納の香」と既存の香りツバキの花容



図2 接ぎ木2年生株の生育と開花状況

表1 「耳納の香」の生育と特性（平成24年）

項目	耳納の香	ちくし曙
樹高 (cm)	74.0	63.8
着花数 (個)	17	29
開花期	2月下旬	2月上旬
花形	八重蓮華咲き	一重咲き
花弁数 (枚)	11	6
花径 (cm)	10.2	6.9
花色(地色)	紫ピンク	紫ピンク
花色(斑色)	鮮紫ピンク	—

注) 無加温ハウス内で管理した接ぎ木2年生株を供試。

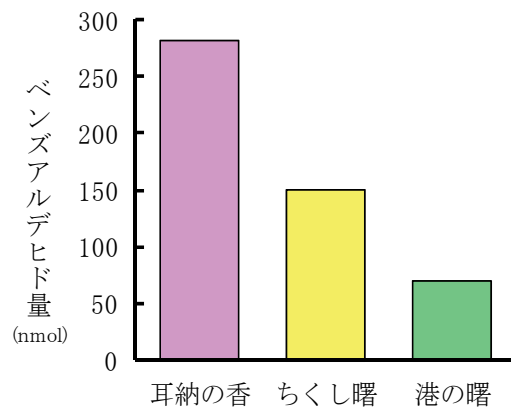


図3 「耳納の香」のベンズアルデヒド量（平成24年）

注) 21±1℃条件下で、1花が24時間に発散する量。

[その他]

研究課題名：ツバキ新品種の育成

予算区分：経常

研究期間：平成23年度（平成16～24年）

研究担当者：國武利浩、井樋昭宏、佐伯一直、坂井康弘